尾張志

七

愛知郡
名古屋之部
寺院

第
第 五 門

県費第一三号
製本 昭和 年 月 日
品目
備付場所 文書課

294
7
1-7

東和縣
史編纂
係之印

愛知縣圖書

尾張志 巻之七

名古屋の寺院中

浄土宗

建中寺

深田増蔵正詔謹撰

植松庄左衛門茂岳謹校

中尾八郎右衛門義稲謹輯

岡田六兵衛啓謹輯

明治十九年八月點檢
AG0.08 ナ7
愛知県文化会館 昭33.7.30 和 37350 A294
A201 7 1-7

京町筋の東のそてよりて徳興山正車記十徳河山志
る古い阿會してかく
し文字をそ探りつゝ
と号し無本寺也
源敬公の御菩提所として慶安四年寺記二十五年
とゐるもろ
つゝぐて
瑞龍院君の御建立下総國結城の弘経
寺の僧廓呑と招請して開山とするる
同五年二月経営成就し六月廓呑上京、
内にて廿二日住僧代と紫衣着用勅許の

倫旨を頂戴す

本堂 本尊阿弥陀佛

鐘楼 慶安四年五月七日林道春の銘ありさし鐘
八天明五年正月廿三日に焼失して今の鐘八天明
七年五月七日督學細井徳民銘を書り

塔頭 正信院八竹腰正晴朝臣の建立甲斐守
院八阿部河内正致の建立光壽院八阿宮大陽寺正綱朝臣の建立
清安院八淺野飛騨守治綱の建立る 唐志ニ正晴ヲ正信甲斐守
甲斐守河内正政ヲ河内守正興正綱ヲ正照飛騨守治綱ヲ古高九守
綱ヲるもつゐも先代にて慶安三年より以前ニ卒セし
人こゝれを北寺家と建立そべ支ゝ八有るべく
今家に此系譜等に乃へて伝ふるなり

寺領 五百石慶安五年五月七日御寄附愛智郡古井村

寺寶 蒙古襲來の畫卷物二軸同畫詞一軸 彈正大弼勝宣公御霊前へ御寄附田植御屏風一雙 眞巖院君御寄附之 其外多シ

相應寺

長坂筋の東の方にて寶龜山と号す京の智恩院の末寺也

源敬公御實母相應院女君の御追福のため寛永二十年七月御建立僧眼譽を以て開山と称す

本堂 本尊阿彌陀佛

樓門 寶龜山の額及び佛殿相應寺の額ハ源敬公の御眞筆なり 源朝臣義直書と裏書に寛永二十年九月十六日從二位

鐘樓 鐘の銘ハ林道春の作なり 源敬公の御自筆なり

塔頭 東月院ハ竹腰正信朝臣の建立 玉相院ハ成瀬正房朝臣の建立なり 林院の三寺ハ享保十三年より廢寺 府志に見えず 究竟院 眷正院 宝

寺領 三百石

性高院

門前町東側より大雄山と号し京の智恩院のまうつし天正十七年忠吉君真御母寶臺院女君の御為に武藏國埼玉郡忍の荘持田村に建立しまひし正覺寺といひしと慶長六年忠吉君清須へ遷りまひし後同八年此もうつし同十二年三月五日に化せさせ君かくれまひし後彼御法号を以寺号に改めしと慶長十六年寺記に六十五年今の所にうつせし中興の開山八僧滿誉玄道なり

朝鮮人来聘の時此寺を三使の旅館とする事八寛永十三年よりはじまれり

本堂

本尊阿弥陀佛

塔頭

称名院一行院と慶長十五年清浪うつしと寺記に見へたり

寺領

百石慶長十一年七月十日御寄附春日井郡寺野村

寺宝

忠吉君御影像一幅　称讃浄土経一巻中将姫筆　金屏風一雙古法眼元信の筆

高岳院

鍋屋町の南にありて持名山と号し京の智恩院の末寺也と甲斐國巨摩郡新府に在て教安寺と呼べり孝長五年三月七日仙千代君かくれまし高岳院と申ておはせる葬りまつる同十三年孝岩親吉清須より一つ一高岳院と改め僧寂蒼を開山とし一同十六年今の所にうつしたてまつる

本堂　本尊八阿弥陀
三尊の木像也

惣大門　清須の城門をうつし一源敬公うつし一

書院　相應院女君の寝殿をうつして方丈をたてたまふ

鐘樓　正保二年二月廿日鋳一銘に見へたり

塔頭　浄峯院八元和三年　相應院女君具父志水加賀守宗清法名浄峯院の為に建立賀月院八　相應院女君具母龍雲院賀月尼の為に建立也　吉具舎弟助六が為に建立助正院八慶長十八年孝岩親相福院八今八廃す

寺領　百石慶長十四年七月御寺附受智郡名屋村

鎮守熊野社　三社権現の本像と安置し
寺宝仙千代君影像一幅

梅香院

橋町裏ふりて性海山と号し京の智恩院のまちもと中島郡奥田村よりて観蓮寺と呼び同郡下津村正眼寺末の禅寺うつしが故ありて廃寺となりし後貞享元年

瑞龍院君の思召ふかき此所に遷し御麗女梅香院の冥福を修しまひ今の宗よ改め梅香院と名づけまつる

平田院

飯田町東の南側よりて高濱山と号し建中寺のまち寺也もと参河國ふりて高田門徒の寺なりしを平岩親吉甲斐國を領せし時甲斐國へうつし其後名古屋片端

の鍛治屋町西角おうつ―慶長十八年再び
今の所ようつ―寛文年中浄土宗に改め建
中寺未とる―親吉の法号にもと今の院
号とる―町方府志に慶長八年ようつ―
寺号と改めし―由に記すハソもうたがう
本堂 本尊八阿弥陀
仏の木像
寺寶 手右ま計頭ら剃
親吉末帯の像

養林寺

石切町おいて童寶山と号―京の智
恩寺 百万遍
と号てのま寺ろう永禄元年林伯渡守
信勝 江名養林寺泰
雄去現居士 の建立開山八智恩寺の住僧
笈長にて美濃國收阜よりうつ―後に浄厚
よ遷―享長年中再び今の所ようつもう

本堂 本尊八阿弥
陀の木像也
鐘楼 延寶四辰年林鐘
鑄―由銘ヨ見へ
寺領 百石瑞竜院
君の御寄附也
寺寶 阿弥陀画像一幅
て能谷直実法師
運生よりうへ―
平敦盛の母衣箱と以源空自ら画ま
天正年中信長ム此寺よ

納められしと、伝へ又本堂の阿弥陀の木像も源義朝乃護持佛にて内海まで常せられしを一旦大宮司季範の家に在しと義経平家追討の時請得て西國へ携へ下りしが其後里石の法然上人興有しとて安置せしと、伝へ

塔頭 根取院正保二年の建立也

西運寺

駿河町東の北側にて暹竜山と号し京乃智恩院乃末寺なり永禄年中僧祖皎武田信玄の族と伝へ)の閑基あるを西運院貞整淳松大姉(信長公の息女と言伝へ)のために建立して清浪の沖

園町に在しと慶長年中今の所へうつす

本堂 本尊阿弥陀仏

寺宝 武田信玄の簇紺地金泥の文字なる不動如山軍信玄の食籠戦場に用ひしが今ハ散失せり又信玄の守本尊一幅宅摩具外信玄の甲冑数事有しが今ハ散失せり

塔頭 真養院 慶年月定ら

松吟院 ハ今廃せり

光明寺

石切町にありて終南山悟真院と号し京の智恩院の末寺なるよし傳ふ年号

僧岌井建立して愛智郡中村より1のち春日井郡平田村より清須へうつし慶長年中今の所へうつせり　太閤記に秀吉公幼稚の時光明寺にて手習せしことに見えたり此寺歟又は畳津の光明寺歟

本堂　本尊八阿弥陀の木像也

鐘楼　文禄十年十月鋳しるす銘文あり

塔頭　吟栄院十王堂ともに廃寺なり　延宝八年十二月十二日再建せる歟故院は永保十九年十一月廃せしと寺記にあり

真祖院

新町裏にありて喜秀山と号し京の智恩院の末寺也慶長十三年忠吉君の御養母堀尾帯刀政晴の室押口氏殿の建立なり清須よりここに遷立しとぞ　玄白寺とひとしく慶長十五年押賀氏殿卒去喜秀院（有志小吉秀院とかけり文政の書上かくて改む）光譽貞祖禅尼と号せしのち今の山号寺号に改む

壽経寺

石切町小路にあり元曇山と号し京の智恩院の末寺也僧鏡譽（此僧天文二十六年に寂す）建立（寺傳には天文年中建立なるよし不顧人施主不相知と見へたり）中古に廻禄して清須と在しと慶長年中尋盛といふ

尋盛寺

石切町小路にあり元五臺山と号し京の智恩院の末寺也文禄年中高人尋盛といふ者其父母の菩提のために建立し僧慶譽と開山ゆゑして清須にありしを慶長年中今の所にうつせり

本堂　本尊八阿弥陀の木像なり

鐘樓　寶暦六子年鋳し曲銘に見へたり

庚申堂　塔頭庚申院享保九年八月庚申堂のこと残りて今ハ庚申堂のこと残る

法藏寺

石切町小路にあり萬徳山と号し京の智恩

院の末寺也天文十年僧久悦（寺傳よハ空眼久悦或ハ融覚久悦ま
先誉上人など見えて一称ふ）の建立よと清須にうつしと
長年中こゝ遷す
本堂（本尊ハ阿弥陀の木像ろ）
地蔵堂（地蔵の木像と釜の中に安置一釜出の地蔵と呼べり）

清安寺

南天道町ふにありて久野山と号し京の智恩院の末寺也もと愛智郡南野村阿弥陀堂の古跡に在しを正保三年御城代久野七郎右エ門宗信の亡父久松院穏誉清安居士のため源敬公へ申てこゝふうつし建立して僧完誉月秀と開山とす

本堂（本尊ハ阿弥陀三尊の木像也）
鐘楼（寛文三年十月十九日鋳しと由銘に見へたり）

遍照院

鍋屋町裏南側ニ
京智恩院ノ末寺也元和七年青山弥次
兵衛春勝此地ヲ
源敬公ニ請申テ建立
一念宗ト云ヒ一ヶ寺ト延宝八年八月十五日
今ノ名ニ改ム

本堂　本尊阿弥陀ノ木像ハ
慈覚ノ作ト云ヒ伝ヘタリ
地蔵堂　地蔵ノ木像ハ定朝
ノ作ト云ヒ伝ヘタリ

鐘楼　享保十年ニ八月鋳
ノ由銘ニ見ヘタリ

光照院

常題目筋ノ北側ニアリテ浄長山ト号ス
京ノ智恩院ノ末寺也元和六年僧照入建
立セリ寺傳ニ云ヘリ

阿弥陀寺

門前町西側ニアリテ西覚山ト号ス京ノ
智恩院ノ末寺也本尊ハ海東郡新家村ヨ

清須ようつ〳〵天文年中織田彦五郎信
友斯波義統と弑し清須を在〳〵と信長
公信友と誅〳〵て義統と此寺を葬り寺
中を一宇と建立〳〵て義統の法号と以塔
頭の号とせ〳〵と慶長年中ころまでありし
ようつ〳〵

寺傳には文禄二年のころ僧白公建立して清須
を在〳〵と慶長年中今の所へうつ〳〵由にいひ
つ〳〵

塔頭 源受院永禄年中僧林覚清須を建立〳〵て與
照院といひし〳〵と義統の法号源受院ととりて
改号せ〳〵由寺記には長谷院ともと香日井郡西堀江
村を在〳〵と慶長十八年此寺中へ再興〳〵

観音堂と當寺の文安永七年閏四月奉寺とう
〳〵と天保年中西堀江村の旧地へうつ〳〵

養運寺

鍋屋町裏北側にあつて宏綱山と号し
京の智恩寺百万遍の末寺なり文安四年弘
元年七寺傳に天文廿卯年とあるはあやまりなり織田信長公の家臣林佐
渡守信勝其父宏綱のために建立して
那古野村の高木町即近所以前の町名なりて旧地今知れずなりし
と慶長年中今の所へうつ〳〵

本堂 本尊八阿弥陀の木像也

瑞寶寺

石切町おうて教學山と号し京の智恩院の末寺也文禄年中本願人休西の建立僧呈誉玄冶開基と伝へ慶長年中こゝに遷せり

本堂 本尊八阿弥陀の木像也

寶周寺

市下新道町西側まうて高木山と号し京の智恩院の末寺也もと光照山阿弥陀寺といひて愛智郡栄村おうしが荒廃及びーと寛永八年上畠裏町おうつーに高木志摩の室寶周院妙安大姉修造して山号寺号と改め僧正誉と中興開山とせーと寛文六年今の所おうつせり

本堂 本尊八阿弥陀の木像也

鐘楼　正徳四年中夏鋳
（由銘ニ見ヘタリ）

誓願寺

石切町ニアリテ法喜山ト号ス　京ノ禅林寺光明寺ノ両末寺也　元亀三年僧空範ノ建立ナリ　慶長年中今ノ所ニうつセリ　もと境内ニ桜樹一株アリ　故ニ桜誓願寺ト呼ヘリ　空範叡山ヨリ携ヘ来リ清浪ノ庭中ニ栽置ケリ　ト寺ともニ

こゝにうつしぬ　寛文年中枯てより今ハなし

本堂　本尊阿弥陀ノ木像ハ恵心ノ作ト云ひ伝ふ

鐘楼　寛延三年八月八日鋳
（由銘ニ見ヘタリ）

西光院

石切町ニアリテ永照山ト号ス　護念寺ト

も呼ぶ　京ノ光明寺禅林寺ノ両末寺也　大

永年中僧空眼久悦建立ス　清浪ノ

利ふと多長年中ふ遷せう

本堂　本尊阿彌陀の木像ハ京の眞如堂の本尊と同木にて慈覚の作と傳へたり

鐘樓　寛文二寅十月鑄ます銘と見へたり

塔頭　宝珠院ハ清涼の土田口ふ在りて本寺と同時ようふ松院ハ委長年中西光院の住僧快空の建立ふ

極樂寺

門前町西側ふ在りて報教山と号し京の禅林寺光明寺の両末寺也ちどめの葉栗郡

極樂寺村ふ在りて民部省圖帳の殘缺ふ見えたる法然上人安居の地ふして天文年中木曽川の出水ふ廃亡しなと慶長九年僧空翔清須ふ再興せしと同十五年ここふ

塔頭　松林院ハ廢安元年の建立也

榮國寺

橋町裏町ふ在りて清涼山と号し京の禅林

寺光明寺の両未寺也もと此所刑殺之地俗
云仏(仕置場ふう)と寛文五年土器野へ移し生跡と
西光院の住僧可信一宇を造立隠居所と
同六年丹羽郡塔地村薬師寺の丈六の阿弥
陀の像をうつし清涼庵といひしを貞享二年藤
田寺と改め京の禅林寺の住僧奥準を開山と
し同年の秋再びその山号寺号かゝげ
千人塚 石碑にて記す切支丹の族を
葬るとぞ

觀音院

萱屋町西側ふりて谷汲山と号し京の智恩
院のまち也寛永二年僧久安建立せし由寺
傳はいつ
本堂 僧吞翁が娘ひさ女君建立ましまして 貞松院
云傳へたり

傳光院

大久保見町より1つて法燈山と号し 唐忠に
菊徳山
とかけり今寺傳ふうてあらむ法藏寺の末寺也天正十五年僧

傳光清須ふ庵と営み僧文久と開祖とし、
傳光院といひしを寛長年中法藏寺の境
内ふ遷し元和七年ふたゝび此ふ遷ちう

地藏堂

證誠寺

東田町ふありて護念山と号し建中寺のま
寺也もと中下押切ふありて無縁寺といひ
しと延宝六年十月廿日 府志に八年とも今
ふ伝ふよりてなり 僧山頂

今の所ふうつし建中寺の住僧念譽今の寺号
ふなりしなり

法應寺

石切町ふありて林光山と号し西光院のま
ゝ天正十五年 府志に十五年とも今寺伝ふよりてなり 僧空郭の建
立ふて清須の朝日ふ在しを寛長年中ふ遷
ちう

本堂 本尊八阿弥陀の木像也

東元寺

禅寺町北の西側にて佛法山と号し西光院のまるう僧観仙開基にて清順と在しまし長年中その所にうつる

本堂 本尊阿彌陀佛

藥師堂 藥師の像八参河國鳳来寺の藥師と同木にて卅羽郡稲木庄杉御堂藥師といひし後小牧山へ遷せる或時火災にかゝりしが土人此像の焼失せし事を悲みけるに夢に此像ふたゝび在僧あらはれ出てみく四邊を尋しに數の中の笹葉のうへに坐しまして藥師とゾひ給へしをもて長年中とふうつるとぞ

鐘楼 寛政六寅仲冬鋳し銘は見へたり

徳林寺

南天乃北側にて亀松山と号し槃田の正覚寺の末寺也永禄十一年僧空舜の建立なりしが清経山と改しより今の山号あるなり

本堂 本尊八阿彌陀の木像なり本尊安置しる此藏の木像八豊臣家朝鮮國を征伐されし時廣井村白山の神とうたて軍船を造らむとせしより谷の下より血流れ出る故木を除て作らしが終に木を以て地蔵一躰と刻し一寺と廣井村より建る極楽寺と号けしが廃して後ち像と此寺ふ伝へしと寺伝よりひて今及ぬ

の地蔵共
呼べり

鐘楼　宝暦十三年三月廿五日
鋳工　[illegible]

清浄寺

大津町の南の東側にて徳壽山と号
一京の智恩院の末寺也此地はもと牧與三右衛
門或は若狭守　長清居城の跡にて寛文年中柳
生兵庫　陣連也と号て　隠居せし地なりと元禄七年
瑞竜院居僧廊竜より下しまひ同十二年六月
廿日海康郡津島村誓願寺　同村珠泉寺末
にて徳壽山元量院清浄寺と改む

本堂　本堂庫裡ともおもてのかた十三尺九月十三日うつし
阿弥陀の木像は定朝の作なりと長五尺九寸観音勢至八三尺
九寸づゝありともと山城国宇治の平等院の釣殿より安
置したると云伝へ
改めてこゝにうつす

牧氏墓　牧与三右エ門長清の墳也塩尻に小林清浄寺
八牧長清の城地にして其支婦の墳今おの
り住持の上人此塔名きえてよめざるゆえ
ると本意なき事に思ひ方〻尋ねもとめしかども知れざる
由かの物語りにて知る清浄寺より送る長清院梵阿弥陀仏
元亀元年庚午二月十五日牧与三右エ門尉長清法名信徳院殿

菩行惠長大禅定尼長清之室織田信長公妹天正五年丁巳八月
十五日ゟ日を見えて甚田の圓福寺の鬼簿ゟ牧氏の法名にて
ゟ寫ー〜て清浄寺へ送りー〜由にて長清ハ小林城主
故其室信長公の姉ゟ小林殿ゟ称せゟる信雄卿従士ゟ限帳ゟ
百三十貫文石ゟ〜ーの内ゟ
小林殿ゟ見えゟ是ゟ

誓願寺

寺領 大室新田十町ゟ永禄十
年十月廿五日御寄附ゟ

久屋町通袋町南の西側にゟて玉林山ゟ号
ー熱田の西覚寺の末寺ゟる亨禄年中僧
日轉 寺記ハ日轉 善誦上人 建立ゟと名古屋村ゟる
ゟと名古屋誉

頼寺ゟ
吟べり

御城御造営のゟ
此寺へ寄附ゟ
ゟ也ゟ
小遷ゟし
ゟ故再び今の所ゟ

ゟ今の高岳院の北東のあた
りゟもと織田信忠ゟ

ゟ東の方

ゟ移具所地勢ゟしりざ
ゟうつせゟ

町方府志ハ元禄七年
ハ三月更ゟ四地ゟうゟ

元禄二己巳十一月十五日僧教空不断補名念
佛ゟ興起ハ是ゟ常念佛ゟ呼ゟ

本堂

本尊阿弥陀の木佛ハ座像ゟーて長八尺余佛工安
阿弥作也又地蔵木像一軀ゟ安置ハ弘法大師の作
ゟといひ伝
へゟ

寺寶　平重盛公旌旗　絳帛にして十字名号ゆ
　　書之と見
　　えたり
　　為、正二位内大臣左大将平重盛法名浄蓮浄空

隆正寺

花屋町の西南側よりて民政山と号し養
林寺のありしもとも東寺町より宝樹院といひし
廃ちの後とうふうして承應元年山下市
正氏政真世隆正院の為に建立し養林寺の
住僧尊誉を開山とせり　隆正院と忘水加賀宗清
　　の二女にて　相應院女君の
妹也山下大和氏勝の妻なり市正氏政ともに珠竜院君御幼少
のとき　相應院女君の命をもて隆正院鞠育しとぞ
いひ伝へ
たり

玄周寺

禅寺町北の西側よりて清浄山と号し養
林寺のありしもとも玄周建立して清浦にも
とを長年中うふうつせり

藥師寺

西鍛冶町の袋町南の西側よりて北城山

と号し一性高院のおもむき也貞治九年清須の立條川の上る淵と樂師の像の流れ寄りしと拾ひとりて城の北なる櫓の中へ藏め置けるに夜〳〵光明を放ちける故おどろきて天文五年菴を構へ安置して北城山正光寺と名づけしと孝長十六年文政五年の書上おゐ天文五年僧堅信建立して清須から〳〵と應長十六年より由おもろし府志おゐ慶安年中此地ようつしその寺号を改めしよし由お見へたり今何もとゝもうぶめかくし

觀音堂

もと廣井八幡の境内にありしと享保三年ふうつり

清水寺

櫻の町伏見町の北側にありて護摩山と号し極楽寺の末寺なりし織田信秀の臣林佐渡守通勝禁裡造營の役と兼ねて清水寺の觀世音を祈願せしが終に功竟ける後報應のたゝ清須に一寺を建立して清

水寺と名づけ…と号長享中こゝに遷（宗牧が東
國紀行に織田霜臺内
お記し…時の事うべし…奉…田
元享僧意伯…して建立せしめ給ひ…寺記に本願人林佑渡守通勝慶長
御近侍のとき…ふつゝと見えたり…

六月　熱田誓願寺の弟子鉄仙といふ比丘尼住
持とる…尼僧也とぞ

文政二年

本堂

本尊千手観音木像也又薬師の木仏と安置し
けるが其大きさ…時西隣の薬師堂に安置し
もの像也清水寺のうつし堂と聞うつてかへ…
故此寺の千手観音と別檀へうつし…
を本尊とせし…

巻窓院

未廣町の西側にあり青雲山と号し相
應寺の末寺うつ正保年中僧竜殘創建し
て智光院と名づけ養林寺の末寺とせし
を承應二年巻窓清雲といふ尼僧再興
して相應寺の末寺とせし…その寺号より
ふりし

自然院

建中寺東の北側にあつて寶池山と号し
徇行記ニ布池山とかけり 相應寺の末寺也寛永二十年相
應寺の開山眼譽隠栖所とその傍に布ヶ池にうたれしが正保三年三月二十
八日眼譽京の黒谷金戒光明寺へ移轉
ー兼應元年ころ京都より歸てこゝに
隠栖せしより一寺とうー自然院と名づけ
しと元禄八年十一月その所ようつせり

とゞめ布ヶ池のかうかに在しー改布池山とかけりや
徇行記ニ布池山とかけり今府志及び寺記ニ隨ふ

林松寺

禅寺町北の西側にありて祖廣山と号し
性高院の末寺也文禄四年富永丹波守の
亡父榮雄淨繁菩提のために建立して武花
國忍よりうつせしと
忠吉君清須へ御國替のとき清須へうつし
奉長十六年再び今の所へうつせり

善光寺

鍋屋町裏より定覚山と号し京の智恩院の末寺なり栗栗郡里田村に在しと申むかしの記録をうけて明徳記に記せし土岐氏等が里田合戦の折遷府の時その一ヶ所のうつし事を塵添塩嚢抄に信濃國伊那郡小泉庄妹井鄉より本田善光をまもり

りて摂津國難波堀江に捨てしを阿弥陀如来の像と崇て本國へ歸りしが尾張國里田宿にとゞまり如来と崇め堂を敷て立給の上に居奉りて臥しけるが其夜の夢に告ていわく如来善光が幸若とくるまれもろ善光と崇たまひて信濃へ趣き給ふべしおもひしまゝおもふ善光寺と建立せしものなるべし

さて善光自ら一標手半の阿弥陀の像

本堂 本尊阿弥陀の木像 又伽藍の左右に
脇田善左夫婦の木像 共に安置す

涼源寺

中須賀町のうち入江町西の南側にあり
て天龍山と号し性高院の末寺 寛永
十三年八月僧光誉建立 鉄炮町に
あり 宝暦六年五月長圓寺と改む
へてその所にうつせり

本堂 本尊八薬師の木像 脇士普賢の作と云ひ伝ふ

蓮華寺

廣井村の内江川の南水車村の北にありて
京の誓願寺の末寺 也 もと津島の宝泉寺末
なりしが 寛政五年四月大山帯満寺
末となる 又同三年十月廿七日南寺町誓願寺末となる 又同
見えたり 延寶七年入誉西林と云る道心者開
基 元禄年中海西郡山路村蓮華寺の号
うつせり

本堂（本尊は阿弥陀の木像也）

法然寺

日置旅籠町の西側にありて法皇山と号し
檪田の西覚寺の末寺也天文二十年（寺傳には永禄四年）
三月三日僧深空の建立なり所名
明鏡山法浄寺といひしを享禄三年修理
空中與しその山号寺号に改めしとぞ
記す

本堂（本尊地蔵の木像は安阿弥が作にて腹内に納む胎
像は後白河法皇の勅刻なり法然上人の開眼佛
といひ傳へたり故に山号寺号ともに法然
俗に腹ごもりの地蔵とも子安の地蔵とも呼ぶ）

鐘楼（文化二年丑春鑄し銘を見へたり）

元興寺

尾頭町北側にありて國豊山と号し京の智
恩院の末寺なり往古は堺法師が開基にて
奈良の元興寺の末寺天台宗なりしが中むら
の兵亂より頽廃して我知郡牛立村よう

つ一東本願寺門徒か轉一尾頭山願興寺
と呼べり其廃跡の今の町か八藥師堂のみ
残りしを後ふ庵と結び享保三年（張州志略ニ享保四年とあるは誤りなり）海東郡栄川村長谷寺と云ふ處
寺をうつして再び國豊山元興寺と改め智
恩院の末寺となる一曲徇行記町方唐志等ふ
見えたり（道場法師ハ愛智郡作手里（今の古渡ノ事）の生れにて
事日本霊異記今昔物語旧本朝文粋水鏡等の古書
ともよく記しなり人物志ふもらせれどうふもらしつ

本堂（本尊藥師の木像ハ古佛の作首のミ残りしふ下ふ後よつぎなる由いひ伝へたり）

阿彌陀院

大曽根坂下北の行當りふありて萬徳山と
号一京の鹿谷法然院の末寺也明暦三年
僧存西建立一て圓滿寺となびふる町
遍照院の末寺ふ一て寛政五年七月廿日
離末一て京の法然院末と一同六年二月十
七日今の院号ふあらたむ

本堂　本尊八阿弥陀の木像を

藥師堂　地藏堂

圓輪寺

俵町筋朝日町西の北側にありて完覚山と号し京の浄華院の末寺なりもと真言宗なりき宝持坊と正覚院とありしを延享二年六月関通と云へる僧改宗して圓陽寺と改め関通派となれり

本堂　本尊八阿弥陀の木像を

一向宗西派

西本願寺本坊

門前町の西側より信證院蓮如上人乃時
年月詳ならず伊勢國桑名郡長島の門徒等が申乞
ふによりて長島の内杉江村に一寺を創建し
願證寺と名づけ上人の末男僧實悳玆に住持
として伊勢尾張美濃三箇國の
の小本山となりしが元亀の比より長島の門

徒等信長公の命に従ひ一揆と起し騒動
四五年のうちやまず徒黨多勢にして退治難
儀なりしかども天正二年九月廿九日終に信
長公の軍勢と戦ひ敗北及びしかば顯如上人
討ち死に願證寺廃絶小本山の絶えんとせし
を内大臣信雄公かく
具領地清須に一寺を建てたて願證寺と名つ
け長島の寺の如く三ヶ國の末寺と所務し
ゐしが其後また長嶋の近邑桑名に願證
寺と再興して三ヶ國の本寺旧儀に復し
ける故清須の寺はて八寺務を行ひ桑
名のち通府となり寺は長島に遷府
の後その地となりしを慶長年中本堂と
なりしなり佛堂殿宇日々に造営加へ
厳麗繁栄の有様となる

本堂　本尊阿弥陀の三像ハ
源信僧都の作佛なり

梅昌院尼公墓　本堂の西北にあり　當府の官女梅小路氏号梅昌院　泰心院君の竈幸を得て鶴九君　松之助君　菊姫御方　秋文院君　御胎死の女　吾太郎君　綾姫御方　政姫御方をうみ奉りて享保十五年七月十一日辛丑にして此寺に葬ひる

寺寶　宮島の屏風一双安藝の嚴島の風景春秋修行の圖を細く画り　歌仙屏風一双　土佐宮内少輔光房が画ける三十六哥仙の六枚折を画く　春秋画の屏風一双　春ハ桜秋紅葉を画く　是も哥仙の屏風にて共に美麗古雅を盡せりといつもも多事也ともいひつべし

寺領　百三十九石余伊勢國奈名郡本顕寺村田領うち一ヶ所は卅羽郡大吉見村と皆此頃知れ

興善寺

小櫻町筋伏見町東の南側にありて荷上山と号し西本願寺直末の院家なりもと天台宗にて延暦十四年の開基如上人を以中興開山とす天文廿三年桓武天皇の勅願寺なりしと云ふ

淨土真宗に改め連枝の僧住持なりしより後上人の子息實憲が連枝の僧住持なりしより後寺格他にそぐれなりもと海西郡荷上村にありしが清須へうつりし後長年中ふたゝび

おうつして東派わかれしが正保年中西六條のま
利となりし由事傳ふる尾陽雑記町方唐志
等に見えたり

本堂　本尊阿弥陀の立像
寺領　十七石八斗八合海西郡荷上村にて
寛永十三年九月廿八日領知状

浄教寺

小橋町筋桶屋町西の側にて西本願
寺直末の内陣一家なり、永四年僧祐願
の建立なり清須にありし長年中その地
にうつせり

延廣寺

橘町の西側にありて無量山と号し寺格浄
教寺に同じ常川掃部延廣の建立にて伊
勢の菜名郡長島にうつりしと元禄六年ふる遷
もと菜名の願證寺の末院なりしが元禄四年
尾山の直末となる

教授寺

小櫻町筋桶屋町の東の北側より
重山と号し西本願寺直末餘間の一家
う明應三年の開基なり美濃國石破
郡數原村に在しと延宝八年二月（或説に八天和二年三月
橋町おうつし貞享二年四月六日ここに
遷し元禄二年十二月東派なり西派に轉じ
寶号明了寺といひしと旦那彦坂八兵衛忠

重の母教授院の菩提寺なるより其の山
号寺号に改めしより年月定まらず

真廣寺

蒲焼町筋伊勢町西の南側より
長山と号し教授寺と同じ寺格也もと
天台宗なりしと文明七年當宗となる
中嶌郡氏長村より寛永二年十二月
十三日朝日町へうつし萬治三年十二月廿日

ふるびたの地よりうつせり

萬福寺

日置の金塚町より附島山と号れ文正元年僧了尊の開基なり中萬郡矢合庄附島村よりうつし明應六年海西郡下一色村よりうつり其後清須城下皆戸町よりうつり享保十二年四月々の所よりうつる寺格八上の寺に同じ

覺正寺

玉屋町の東側にありて寺格上に同じ

と海東郡富永村よりうつしと元和年中ふるうつし宝暦八年六月高田宗より安永三年々その派を改復し

鐘樓 享保七年建立

正覺寺

田町二町目の東側よりうつて一柳山と

号一寺格上ハ同じく海東郡包里(カノサト)村ハ
在て了福寺といひしを文亀三年僧妙西
真言宗ニ改め寛永九年ニ今移
て寺号を改めしハ
元和二年月空ぐ
善龍寺
鶴童町三丁目東側ニ在て寺格上ハ同じ
明應年中僧如光が開基ニて三河国碧海
郡篠村ハ
ニ承安元年八月ニ
うつし寺傳ハ慶長六年名古屋ニうつ
慶安元年五月ニ
ハ誤ニて其頃ハ
の村うち此寺のミ町家もて名古野
の事古圖ニも見えず
圓勝寺
飯田町の北側ニあて寶林山と号し一寺格
上ハ同じく僧善了房が開基ニて甲斐國巨
麻郡府中ニ
ニ慶長十六年ニ

つゞき

教順寺

新町の南側にありて鈴木山と号し本堂
は日ぶもと甲斐國巨麻郡小松度観音上人
書と天正十七年甲州巨麻郡小松度教順と
見えたり小松度八府中の内の地名なり小在しと
長十二年五月平岩主計頭親吉清須府よう
つゝ元和年中名古屋片端筋の坂下にうつ
寛永九年八月六日こゝにうつりてその地をうる寺傳に天心
十年六月瀧川左近將監一益の建立にて上野國群馬郡厩橋小
ありしが慶長六年二月平岩親吉甲斐の小松度へうつゝ
の画像の裏書は甲州小松度と書たるに依なり
梅昌院尼公佛殿當寺の大旦那なるをもて
鐘樓明暦三年建立
寺領三十石元禄十一年御寄附
愛智郡高針村にて順光

宗圓寺

東田町の北側にありて巨麻山と号し天
文十五年僧了顯の建立にて美濃國葉

栗郡大浦村より一旦東寺町へうつりうつること百拾年中
ふたゝび聖徳寺の末寺となりたるそのゝ末派
の派を轉ず寺格上の寺と同じ

長圓寺

入江町鎗鋲炮町の西北側にうつて輪山と
号し寺格上と同じ寛文六年六月僧長玄
建立して旧町の南側にうつしと宝暦六年
五月凉源寺と改と撫そその所にうつす
寺傳は八個空念が開基して
清須に在しと爰に遷しと云

真宗寺

皆戸町の西側にうつして天王山と号し西本
願寺直末にて大永五年の建立にて海を
郡穂保天王前（今穂保庄と呼ぶ地なるべし）と称
所にうつしと天正年中清須にうつし多長
十四年その地にうつるにより報土寺と

しるて東派ろろ一と云保四年七の流よ移ば

鐘楼 建立年月 空うろん

教泉寺

俵町筈伊勢町西の北側よ行ろて放光山と号し当長年中浄依ろうろ云保四年末派ろ移派して西本願寺直末となる

善導寺

蒲焼町本町東の北側よありもと伊勢國長島よりこゝと寛永年中海西郡檫江ノ荘崔来村ようつ一貞享三年こゝうつせろ本山上よ同じ

東漸寺

鍋屋町裏の北側よある伝音山と号し西本願寺直末ろもと専修坊といひて申斐國府中よりて年岩親吉の室家休清院の菩提所な

うしと号す長十二年清須よりうつす当
地にうつりて延寶三年々の事なり
西源寺
枇杷鳶南側よりうつす寛永三年僧祐信建
立して當所北の方丘數十ヶ所ありて
そのうちその一所よりうつし延宝六年二月東派
より移轉して西本願寺の直末となる

愛　知　県
1103283648